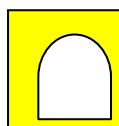


日吉台地下壕保存の会会報

第111号
日吉台地下壕保存の会

2013年度総会開催される

横浜市は地下壕を保存するために文化財指定を！

地下壕出入口前
遺構破壊進む

2013年度総会が6月1日慶應義塾大学藤山記念館会議室で行われた。記念講演の前に航空本部等地下壕入口付近宅地開発工事の近況が報告された。横浜市が『周知の埋蔵文化財包蔵地』としてリストアップをしたが、工事を中止することは出来ず、工事は続行され、出入口前の遺構の破壊が続いている。早く横浜市は保存に向けて積極的に動いてもらいたい。



2013年度総会

記念講演は「沖縄で見たこと、考えたこと—琉球大学に1年間留学して—」の題目で大西章氏(慶應義塾高校教諭)が1年間沖縄で集めた資料とともに、沖縄と本土の関係を過去から現在まで、沖縄の視点に立って話された。米軍専用基地の74%がある沖縄では基本的人権の立場から基地の軽減を訴えていることを本土の人たちはどのように考えるか問題提起を行った。

また、地下壕保存・文化財指定要望書の署名は822筆が集まり、横浜市に提出をしました。(p11)

目次	
報告 2013年度総会	1p
お知らせ 第17回戦争遺跡保存全国シンポジウム 岡山県倉敷大会	2p
報告 2013年度総会	
2012年度活動報告	3~5p
決算報告	5p
2013年度会長・副会長・運営委員・会計監査・顧問	6p
2013年度活動方針	6p
2013年度予算	7p
投稿 記念講演を聞いて(小山信雄)	7~8p
報告 航空本部等地下壕出入口宅地開発工事の現況	9~10p
報告 横浜市教育委員会からの要請書の回答	10p
報告 署名の報告・お礼(八木澤正)	11p
報告 平和のための戦争展inよこはま	11~12p
連載 地下壕ガイドから一言-下山中学校-(長谷川崇)	12~13p
連載 地下壕設備アレコレ(その8)(山田譲)	14p
活動の記録 2013年4月~6月	15~16p

第17回戦争遺跡保存全国シンポジウム岡山県倉敷大会要項
大会テーマ「戦争遺跡の大切さを地域・日本・世界から考える」

1. 主催 戦争遺跡保存全国ネットワーク
第17回戦争遺跡保存全国シンポジウム岡山県倉敷大会実行委員会
2. 後援 岡山県、岡山県教育委員会、倉敷市、倉敷市教育委員会、倉敷芸術科学大学、朝日新聞、読売新聞、山陽新聞、岡山放送
3. 助成 公益財団法人福武教育文化振興財団、サンエイグループ社会貢献福祉基金

4. 趣旨

戦後68年が経過し、戦争の記憶の継承はヒトからモノへ移行しつつあり、戦争遺跡の重要性はこれまで以上に増してきています。しかし現状は、戦争遺跡の価値が十分に認知され、保存・活用されているとはいえないのでしょうか。

第17回戦争遺跡保存全国シンポジウムの開催地、岡山県倉敷市の水島地域には、全長約2,000mにおよぶ県内最大級の戦争遺跡、亀島山地下工場があります。しかし、その重要性は倉敷・水島地域の人たちにさえまだ十分理解されておらず、保存運動の大きな課題となっています。

亀島山地下工場は三菱重工業水島航空機製作所の疎開工場で、内部の遺構調査と聞き取りから、発破による掘削・拡張工事と工作機械を使った部品製造とが同時に実施され、劣悪な環境のため、けが人が続出し死者も出るという戦争末期の緊迫した状況が確認されています。また現在の水島市街地は、水島航空機製作所の建設に伴い計画された新興工業都市の中心部に当たり、広幅員街路や防空砲台など高度防空都市の名残りを留めています。それらは、水島地域の成り立ちを示す近代の文化遺産であり、平和・歴史教育の場でもあります。2012年11月には、水島地域の活性化に取り組む団体を中心に、亀島山地下工場の保存とまちづくりを目指して「亀島山地下工場を保存する会」が設立されました。倉敷市も「亀島山地下工場の碑」の建立や戦争遺跡マップの作成など、平和事業を進めています。

水島地域への大軍需工場建設は、全国的にみると、高度国防国家樹立と国土の総軍事基地化を目的とする、軍需工場の分散疎開とそのインフラ整備のための新興工業都市建設事業の一環でした。そのため人・物・民需産業まで理不尽に総動員されました。水島地域に現存する多くの戦争遺跡は、全国各地で進められた地域まるごと戦争遂行への動員・軍需都市化の典型例を今に伝えています。さらに世界的にみると、第二次世界大戦の特徴である総力戦とそれに伴う総動員、さらに航空戦の実像を備えています。

各地域に残る戦争遺跡の特異性と共通性を明らかにするとともに、時代や地域・国を超えた普遍的価値を認識し共有することによって戦争遺跡の価値をさらに高め、平和のための文化財としての重要性を広く知ってもらうことで保存・活用を進めたいと考えます。

今大会は、全国のみなさんとともに、地域・日本・世界を貫く多様な視点から戦争遺跡の重要性を再確認し、その保存・活用の運動を進める契機になることを願って開催します。

5. 日程と会場

2013年8月17日(土)～19日(月)
水島愛いサロン(環境交流スクエア)

岡山県倉敷市水島東千鳥町1-50 電話 086-440-5511 FAX 086-440-5600
水島臨海鉄道水島駅下車すぐ

2013年度総会

○講演会 13:00～15:00

・挨拶 大西 章 (日吉台地下壕保存の会会長)

・報告 「今航空本部等地下壕東側入口で

何が起きているか」

報告者 大西 章

・講演 「沖縄で見たこと、考えたこと

—琉球大学に1年間留学して—」

講師 大西 章 氏 (慶應義塾高校教諭)



講演者 大西章氏

○総会 15:15～15:45

2012年度活動報告

2013年3月20日、地元の長谷川運営委員から航空本部地下壕の出入口のある山の斜面の樹木が伐採されているとの報告があり、それ以来日常生活は一変した。慶應義塾大学の安藤先生との連絡、日吉キャンパス事務室との連絡、役所との対応、マスコミ取材の対応、刻々と変化する現場写真の撮影、メールの送付等忙しい毎日となった。結果について現段階では出入口が1つ、沈殿槽が1つ、擁壁建設のため破壊され、埋もれてしまった。これ以上地下壕の破壊が進むかはまだわからない状況であるが、保存に向けて活動をしている。

3月末日、大西会長は1年間の沖縄留学から帰られた。この1年物理教室の方々には大変お世話になった。『会報105号(4.27)～108号(2013.2.1)』『第24回総会資料』の印刷、会場の申し込みなどお手を煩わした。心より感謝申し上げる。

ここでその間の会報編集の流れを記せば、原稿は各自が入力、メールで石橋運営委員へ。石橋の編集が終わると各自に送り返して校正、石橋が訂正して物理教室にメール送付。物理ではプリントして原版を作り、印刷し、二つ折りにする。それを亀岡運営委員達が車で受け取りに行き、日吉地区センターで発送作業(16pの組込み、封筒の宛名貼り、封筒詰め、クロネコラベル貼り、数の確認)を行う。クロネコに渡す為、亀岡が持ち帰り、翌日発送する。

2012年6月2日に開催された総会の記念講演は菊池実氏の「戦争遺跡考古学の現状と課題～戦争遺跡の調査研究そして保存活用～」で、寄せられた感想に、戦争体験世代が17%であるとのことについて「日本人全てに投げかけられた、この差し迫った、そして重要な問いかけに、一つの回答と方法を示唆してくれた」とあった。

第6期にあたるガイド養成講座は2012年3月17日に開講、7月4日に終了した。次の第7期を2013年4月13日より開講している。第6期より山田運営委員を中心に打合せ会を設けて内容を立案し、戦争体験者の話や本会の成立の話等実話の発表が取り入れられている。また、第6期はガイドとして実際に参加される方が多く心強い限りである。ただ、第7期の受講者が3人と少なく、こういう時もあるとして次回に期待を寄せている。

8月2日夏休み見学会にはヒヨシエイジ、明治学院大学原武史ゼミ、もえぎ野中学校、下田小学校はまっ子ふれあいスクールなど81名の参加があった。その外見学会には学生団体の参加が多く主なものは以下の通りである。大師高校18名、福澤研究センター設置講座「近代日本と福澤諭吉」101名、あざみ野中学校他43名、大綱中学校23名、愛知学院大学歴史学科17名、青葉区聴覚障害者34名、松本蟻ヶ崎高校41名、田園調布学園高校31名、慶應高校5名。

8月18日から20日まで、戦争遺跡保存全国ネットワーク三重県鈴鹿大会が開催され、会場の鈴鹿市文化会館けやきホールには三重県知事、鈴鹿市長、鈴鹿市議会議長が来場、ご挨拶があった。記念講演は清水信氏の「戦争 その記憶と記録」、基調報告は十菱氏の「戦争遺跡を平和のための文化財に!」、地域報告は浅尾悟氏の「格納庫保存運動と軍都・鈴鹿」。19日当会からの発表は、第2分科会の石橋星志氏、山田譲氏による「連合艦隊司令部の置かれた日吉寄宿舎の歴史的建造物認定~保存運動と補修前の状況を中心に~」であった。閉会集会において基調報告に沿った大会アピールが採択された。20日現地見学会は①鈴鹿と北部コース、②志摩半島コース。②に参加された山田譲氏は「きれいな海と美しい<本土決戦>陣地」と題して感想を書かれている。

9月30日、10月14日、戦争遺跡(横須賀・三浦)を巡るバスツアーは希望者多数により2回に分割し開催。見学地:第一海軍技術廠支廠(釜利谷)、同支廠跡記念碑、横須賀海軍航空隊大掩体壕(野島公園内)、明治憲法起草地記念碑(夏島貝塚の隣り)、第一海軍技術廠(浦郷)等、新井氏のご案内、岡上氏の運転で無事終えることができた。

10月27~28日、川崎・横浜平和のための戦争展を川崎市平和館で開催。実行委員会は7月18日より3回、10月26日を準備にあて、12月12日には反省会を慶大生協食堂で行った。実施団体は「登戸研究所保存の会」「日吉台地下壕保存の会」「蟹ヶ谷通信隊地下壕保存の会」に「川崎中原の空襲・戦災を記録する会」が加わった。本年のテーマは「日本が戦争をしていたころ~そのとき川崎・横浜では~」。27日シンポジウム「戦争と地域、そして戦争の記憶の継承」、28日若者の発表「戦争の記憶をどうひきつぐか」、記念講演:早乙女勝元氏「語り継ぐ平和への想い」等のほか、見学会やバスツアーも実施された。

2013年3月9日、日吉台地下壕保存の会公開講座(旧日吉をガイドする講座)第8回を開催。都倉武之慶大准教授の「慶應義塾の寄宿舎から見える日本の近代の一側面~日吉寄宿舎リノベーションによせて~」と題する講演で、板倉卓造の「慶應義塾の寄宿舎」の一節「寄宿舎は学校の中心たるべき所なので、所謂品性の陶冶は、即ち此處で成就さるべきものである」「慶應義塾の寄宿舎は慶應義塾其物であるといふことが出来る」と言う先人の言葉に教育への深い想いを感じた。

3月23日、地下壕①-B航空本部地下壕東側出入口で開発工事が開始された事は冒頭に述べた通りである。

日吉台地下壕の紹介は次の通り

2012年3月港北区民活動支援センター刊『マイ歩一夢(ホーム)タウン港北』

8月13日『日本経済新聞』「学生街今むかし 日吉(横浜市)下」

8月16日NHK首都圏ニュース

2013年新春号『東横線が走るまち 日吉駅周辺』

2013年3月号『広報よこはま港北区版』「港北めぐり」

日吉台地下壕保存の会

◆会員数:個人321名 交換・寄贈団体65団体

◆定期総会開催:第24回 2012年6月2日

◆運営委員会開催:5月~4月 12回

◆会報発行:106号(6.29) 107号(9.21) 108号(2013.2.1) 109号(4.24)

◆地下壕見学会:5月~4月 45回 1573名



2013年度総会

- ◆地下壕ガイド学習会: 5月~4月 7回
- ◆5.30~6.3 「第17回平和のための戦争展 in よこはま」参加 (実行委員会4回出席)
- ◆6.11 日吉地区センター自主事業「わが街再発見~日吉の空襲と日吉台地下壕」茂呂、喜田出席 6.18 地下壕見学会
- ◆8.2・3・6 夏休み見学会
- ◆8.12 「戦争体験を聞き平和を語る会」参加 (コープ下田店)
- ◆8.18~20 戦争遺跡保存全国シンポジウム三重県鈴鹿大会
- ◆9.20 冊子『戦争遺跡を歩く 日吉』増刷 5000部
- ◆10.27~28 「川崎・横浜平和のための戦争展」開催
- ◆11.17 「日吉フェスタ」(ヒヨシエイジ主催) 参加 (10.13 日吉フェスタ準備説明会出席)
- ◆2013.3.9 日吉台地下壕保存の会公開講座 (旧日吉をガイドする講座) 第8回開催
- ◆第6期日吉の戦争遺跡ガイド養成講座第4回 (6.9) 第5回 (7.14)
- ◆第7期日吉の戦争遺跡ガイド養成講座第1回 (2013.4.13) 第2回 (5.11) 第3回 (6.8予定) 第4回 (7.13予定)

2012年度 決算報告 (単位 円)

費目	2012年度予算	2012年度決算	備考
【収入の部】			
会 費	325,000	273,500	219名
見学会資料代	450,000	441,930	内訳別項
図書等頒布	0	113,700	
寄付金等	0	30,900	
繰 越 金	560,369	560,369	
計	1,335,369	1,420,399	
【支出の部】			
運 営 費	100,000	96,141	各種会合・打合せ等
事 務 費	120,000	119,744	事務用品費等
印 刷 費	80,000	71,724	会報・資料等
通 信 費	200,000	192,905	会報郵送費等
図書資料費	150,000	131,460	書籍・資料等
交流・交通費	150,000	102,820	全国集会・各平和展賛助金等
謝 礼	100,000	60,000	講演・学習・調査等
冊子作成費	200,000	446,250	5000冊
予 備 費	235,369		
計	1,335,369	1,221,044	
差引残高		199,355	

見学会開催費用内訳

収入の部	支出の部	保険料	166,500
見学会費用	振込手数料	3,150	
	案内経費	143,500	
	※資料作成費	441,930	
合計	合計	755,080	

※資料作成費は2012年度決算の見学会資料代に計上しています

以上の通り報告します

2013年5月30日

日吉台地下壕保存の会

会計 亀岡 敦子



この報告により収支を監査したところ、適正に処理されていることを認めます。

会計監査

熊谷 紀子



会計監査

山口 園子



2013年度日吉台地下壕保存の会(案)

会長 大西 章

副会長 新井 摥博 鈴木 順二

運営委員 阿久沢武史 石橋 星志 岩崎 昭司 上野 美代子 遠藤 美幸 岡上 そう
亀岡 敦子 喜田 美登里 桜井 準也 佐藤 宗達 杉山 誠 谷藤 基夫
常盤 義和 中沢 正子 長谷川 崇 古川 晴彦 宮本 順子 茂呂 秀宏
山田 謙 山田淑子 渡辺 清

会計監査 熊谷 紀子 山口 園子

顧問 鮫島 重俊 白井 厚 東郷 秀光

2013年度活動方針(案)

日吉台地下壕保存の会は発足以来24年たち、この間保存の会会員の方々、全国戦争遺跡保存運動に携わっている方々、日吉地域住民の方々と一緒に活動を続けることが出来、保存そして活用運動を展開してきました。

しかし、今年4月に民間所有地にある航空本部等地下壕東側出入口の1つが壊されました。そして、この開発工事は現在も続き、更に地下壕の遺構が破壊されている状況です。

横浜市は『周知の埋蔵文化財包蔵地』に指定する予定と決めましたが、許可した工事を中止することまでは言及していません。文化財に指定されても壊される可能性は十分にあります。文化財として認めながら、破壊も認めている横浜市の矛盾した態度を厳しく追及しなくてはなりません。

横浜市はこの地下壕を保存するためにも、この土地を借り上げるなり、買取りして、文化財保護行政をやるべきです。一度壊された文化財地下壕は元には戻りません。

また、文化庁も国として、文化財保護行政を進めるべきです。

このように法律的に行政的に困難な状況ではありますが、これを打破するには保存の会、地域住民、全国戦争遺跡保存運動を進めている方々と協力して保存運動を広範囲に強力に進め、世論に訴えるしかないと思います。

その他にも見学会の充実、新しい仲間作りと勉強のために『ガイド養成講座』の拡充などをしていきたいと思います。

そのために以下の活動方針を提案致します。

活動方針

- 文化財指定の早期実現を文化庁・神奈川県・横浜市に働きかけ、地下壕を保存する。
- 『日吉平和ミュージアム』の建設に向けて努力する。
- 日吉台地下壕見学会の内容を充実させる。
- 小・中・高校生のための見学会を開催していく。
- 『ガイド養成講座』を充実させ、ガイドの輪を広げていく。
- 日吉台地下壕の学術調査・研究及び学習会を開催する。
- 慶應義塾・横浜市・県・国への働きかけを港北区住民の方を始めとする地域の方々と連携して行う。
- 全国の戦争遺跡保存運動の会との連携を深め、保存運動を盛り上げていく。
- 運営委員会の活動の充実と拡大強化をはかる。

2013年度 予算(案)

(単位 円)

費 目	2013年度予算	備考
【収入の部】		
会 費	300,000	
見学会資料代	450,000	
図書等頒布	0	
寄付金等	0	
繰 越 金	199,355	
合 計	949,355	
【支出の部】		
運 営 費	100,000	各種会合・打合せ等
事 務 費	120,000	事務用品費等
印 刷 費	70,000	会報・資料等
通 信 費	200,000	会報郵送費等
図書資料費	100,000	書籍・資料等
交流・交通費	100,000	全国集会・各平和展賛助金等
謝 礼	50,000	講演・学習・調査等
冊子作成費	0	
予 備 費	209,355	
合 計	949,355	

収入の部の会費は前年度実績をもとに計上しました

2013年6月1日

日吉台地下壕保存の会

運営委員会

投稿

記念講演「沖縄で見たこと、考えたこと
－琉球大学に一年間留学して－」を聞いて

小山信雄

今回、日吉台地下壕保存の会主催の記念講演で、大西章会長より「沖縄で見たこと、考えたこと」というタイトルで講演して頂きました。昨年4月から普天間基地の近くに居を構えての現地報告ということで、とても迫力ある生々しいお話が聞けました。又、14世紀の琉球の明国への朝貢の時代から、沖縄戦の特徴、日本への復帰までの歴史や、沖縄と本土の基地反対闘争の経緯、本土では減少してきたが、沖縄では増加し、全国の米軍専用基地の74%



10万人が集まったオスプレイ配備に反対する沖縄県民大会

も、なかなか考えが及びません。大江健三郎さんの「沖縄の犠牲のもとに、本土の平和と繁栄が築きあげられてきたことに、本土の日本人は、それをよく認識していないのではないか」には同感し、ヘリパッドいらない住民の会の「自分たちの生活空間を静かなものにしたい。世界のどこかで行われる戦争の加害者になるのはいやだ」は人としてごく自然な気持ちであると思い、ベトナム戦争時に「悪魔の島」と呼ばれていたことは、とてもやるせない気持ちだったのではと感じます。

沖縄の米軍基地は、1951年のサンフランシスコ講和条約後も、1972年の沖縄返還後も、更には1990年代の冷戦終結後でさえ、返還されていません。広大な米軍基地があるからこそ、「騒音、墜落事故」「米兵による事件、犯罪」が後を絶たないので、基地はなくなれば良いに決まります。一方、基地に依存する経済も一部あることは、忘れることは出来ません。

これは沖縄に限った事ではありませんが、そもそも「何故、日本の中に外国の軍隊が存在し続けるのか?」という素朴な疑問が湧きあがります。「米国の世界戦略の一つに組み込まれている抗し難い状況」という事かもしれません、太平洋のバランスオブパワーも戦後70年近く経って随分と変わっていると思います。更に「何故基地は必要なのか、或いは不要で良いのか?」「軍事力はどうなのか?」といった根本議論も必要かもしれません。私事で恐縮ですが、私の曾祖父の家は、現在の横須賀基地内の海辺の地にありました。訪問すら出来ない治外法権の地になっていることは不思議ではあります。

「差別」ということばはとても聞き苦しいことばですが、7段階あると言われています(差別をする人～無関心な人～差別を受ける人)。一番留意すべきは「差別に無関心な人」が実際には差別に加担しているケースがあるという事です。今回の講演を聞いて、沖縄問題への関心を深め、学習してゆくことの大切さを学ぶことが出来ました。

が存在する実態などを伺い、沖縄が置かれている厳しい現状について思いを新たにすることが出来ました。

一年経って感じたこととして「沖縄から本土(大和)が見える」「情報が片寄っている」とのお話がありました。確かに私たちは日頃、沖縄に関する情報には多々触れることはあり、「オスプレイの危険性」や「米兵の犯罪」などについても、シリアルな事態とは思いつつ、なかなか自分のこととしては捉えられていないと感じます。又、情報が如何に片寄っているのかということに



兵士の宙づり訓練をするオスプレイ(東村高江)

私の曾祖父の家は、現在の横須賀基地内の海辺の地にありました。訪問すら出来ない治外法権の地になっていることは不思議ではあります。

宅地造成工事・ 地下壕破壊進む！

会報110号(特集号)で5月27日までの工事の状況をお知らせしました。その後の工事に関する現況をご報告します。

- ☆5月31日 横浜市教育委員会から要望書の回答を受け取る
- ☆6月1日 『日吉五丁目の緑と住環境を守る会』が行っている署名活動を会員に協力を要請する。
- ☆6月3日 日吉5丁目自治会長宅へ署名のお願いと保存運動の協力をお願いに行く
- ☆6月6日 日吉台地下壕を『周知の埋蔵文化財包蔵地』にリストアップする市教委の審議会が開催され、リストアップされた。今後、県が包蔵地の審議する予定。
- ★6月7日 北側沈殿槽横に鉄筋を組みコンクリートの壁をつくる。民家前側に鉄筋を組みコンクリートのフェンスをつくる
- ☆6月10日 横浜市教育委員会が6a入口前の通路を測量。6a入口前は舗装されているが7a方向への通路は未舗装。土管を掘出す。横に『アイチ』の刻印があり、常滑産であろう。
- ☆6月19日 横浜市教育委員会文化財課に署名第一次分として822筆を提出。
- ☆6月23日 民家前はフェンスをつくり、土で埋め立あり、道路にする予定。7a入口前に小規模な擁壁をつくるために土を掘り、コンクリートを流し込んである。
- ☆6月25日 横浜市会議員(こども青少年・教育委員会委員)11名と教育長・副教育長を含め教育委員会事務局総勢十数名が安藤教授の案内で日吉台地下壕と工事現場を視察し、その後、慶應日吉事務長などと質疑応答をした。地下壕が貴重なものと認識し、市民や小中学生へ公開



北側沈殿槽



横浜市教育委員会調査



土管(アイチの刻印)

に対して市として慶應にどこまで協力できるかなど質問をされた方がいた。また、この1週間前に横浜市副市長らが地下壕を視察した。



住宅前のフェンス工事



住宅前道路建設のため埋められた
(地下壕出入口前遺構がかなり破壊された)

☆保存の会の要望書に対する横浜市教育委員会の回答

保存の会が提出した要望書に対する回答が以下のように5月28日付で届きました。内容は近代遺跡として貴重なものと考えるが国の史跡に指定されていないので保存はできない。工事をする前に調査が可能になるように手続きを進めたいと保存担当官庁の文化財を守るという姿勢のない無責任な回答でした。実際に工事の合間の調査で終わりそうです。何とかあきらめずに横浜市の姿勢を変える運動をしましょう。

全国ネットからの要望書の回答もありました。日吉台地下壕への回答書と宛先以外一字一句同じ文章でした。

また、慶應義塾も地下壕保存の要望書を横浜市に提出しました。

教生文第335号

平成25年5月28日

日吉台地下壕保存の会

会長 大西 章 様

横浜市教育委員会
教育長 岡田 優子


日吉台航空本部等地下壕の保存に関する要望書への回答

日吉台地下壕は、第2次世界大戦末期に旧日本海軍の中枢部が置かれていた、近代遺跡として貴重なものであると考えています。

事業者の協力を得て、遺跡の実測調査等は行いましたが、現時点では文化財保護法による国の史跡などには指定されておらず、法的に保全を図ることは難しい状況です。

今後、事業者に事前の届出を義務付け、記録保存のための調査等について確実に協議を行いうことが可能となるよう、国や県と協議した上で、横浜市文化財保護審議会の専門家のご意見なども伺いながら、埋蔵文化財の包蔵地台帳への登録をする方向で手続きを進めたいと考えています。

ご理解いただきますようお願ひいたします。

署名の報告

総会のとき「日吉五丁目の緑と住環境を守る会」が取り組んでいる署名に協力をお願いしました。会報110号に署名用紙を同封しましたところ、多くの方から署名が集まりました。822筆が集まり、第1次分として6月19日に横浜市教育委員会に提出してきました。今後も署名を続けていきますのでよろしくお願いします。

署名のお礼

日吉五丁目の緑と住環境を守る会 八木澤正
ありがとうございました

私たち「日吉五丁目の緑と住環境を守る会」は、当初開発地域周辺に限定して、要請署名を集めるつもりでした。

しかし、始めてみると意に反し?一港北区を越え横浜市を越えて署名が集まるようになりました。

「日吉台地下壕保存の会」が、署名の取組みを始めるや、さらにその枠を超えて、遠く鹿児島からも署名が届くようになりました。ついに“全国区”になってしまいました。お一人で50数筆集めてくださった方もいらっしゃいます。ほんとうに感謝に耐えません。

横浜市教育委員会の文化財課には、6月19日822筆の署名を第一次分として届けました。

文化財課の窓口では、「横浜市の文化財審議会で、日吉台の戦争遺跡を埋蔵文化財包蔵地として、記載を求めるにしたが、上のほうからは一『初めてのことなので慎重にやるよう』いわれている」と漏らされました。これからも運動は続くと思います。

とりあえず、報告と心よりのお礼を申し上げます。

報告

第18回 2013平和のための戦争展 in よこはま

「平和のための戦争展 in よこはま」は、今年も横浜のかながわ県民センターで5月26日・31日～6月2日に開催されました。「見つめよう!語り合おう!戦争の過去と今」として横浜大空襲(1945年5月29日)の惨状を伝え、戦争のない平和な世界の大切さを伝える企画を毎年続けています。保存の会は日吉台地下壕の展示などで参加しています。

1階展示場には横浜大空襲の写真や資料、占領下の横浜、戦没船の記録、原発

要望書

2013年 6月 日

横浜市長 林 文子様

横浜市教育委員会教育長 岡田 優子様

2002年11月、「日吉五丁目宅地造成工事」計画が明らかにされて以来、私たち開発地域周辺住民は緑と埋蔵文化財を守るために、文化庁ならびに横浜市教育委員会に、保存の要請を続けてまいりました。

しかし残念ながら、本年3月より始められた造成工事により、航空本部出入口の一つと、付属する沈殿槽などが破壊され、埋め立てられてしましました。

今般横浜市教育委員会が、この地下壕周辺を文化財保護法に基づく埋蔵文化財包蔵地として、神奈川県の台帳に記載を求める方針であることを知りました。しかし近現代の戦争遺跡の記載については未定であるとのこと、深刻なる失望を禁じえません。

戦争遺跡の社会的評価が高まっている現在、これを包蔵地台帳へ登録することは緊急を要する事と思います。開発地域の半分はいまだ健在です。是非台帳への登録申請を、早急にお願いいたします。

また、埋蔵文化財保全のために、開発地域の土地の取得・活用など、横浜市の特段のご配慮を心よりお願いいたします。

日吉五丁目の緑と住環境を守る会

氏名	住所

第一次集約 6月10日
送付先 〒223-0061 横浜市港北区日吉5-12-21 八木澤 正

横浜市への要望書(署名)



講演者 大西章氏



平和のための戦争展 in よこはま ポスター

吉台地下壕保存の会の大西章会長が2004年の沖縄国際大学キャンパス米軍ヘリ墜落炎上事故と新型輸送機MV22オスプレイ配備について、それぞれ報告をしました。続いての講演「江戸が現代に問いかけるもの」の田中優子さん

（法政大学教授・江戸学研究・横浜生まれ）は沖縄の「棄民」からお話を始めて、「グローバリゼーションの中の江戸」について語られました。

神奈川新聞(2013.6.3)

事故、米軍機墜落事故などの展示約500点。2階ホールで5月26日・6月2日に講演と朗読劇が行われました。参加者は4日間で約1500人。

6月2日の、報告と映像「米軍機墜落事件～沖縄・横浜…」では①「米軍機墜落事故平和資料センター」の斎藤真弘さんが1977年に横浜市緑区で発生した米軍機墜落事故について、②高久はるかさんが卒業論文で取り上げた1964年大和市上草柳で多数の死傷者を出した米軍機墜落事故について、③昨年1年間琉球大学に留学した、日

川 研 聞 2013年(平成25年)6月3日 月曜日

■ 横浜で講演会

県内や沖縄で起きた米軍機墜落事件について知り、問題点などをあらためて考える講演会「米軍機墜落事件と沖縄・横浜」(平和のための戦争展)が、横浜市内で開かれた。先月月末まで開催されたこの太洋に墜落する事故が起きたばかりだけに、参加した市民らは熱心に耳を傾けた。(真野 太樹)

長慶心高校教員の大西章さんが昨春から1年間、沖縄の大学で博士号を取得して学びながら、オーストラリア配備を目の当たりにした経験を、自ら撮影した写真などを使いながら報告。沖縄の市町村の首長が政府に配備反対を訴えた際に、本土のメディアでは扱いが小さかったこと例に挙げ、沖縄は本土とは違う「構造的差別がある」という構

米軍機墜落

問題点考える



★軍機の墜落事故について考へた講演会

年間の沖縄生活で実感したことを伝えた。国側との裁判が長引いた。今春に横浜市内の大学を卒業し、論文で1919年まで日米地位協定も外務省の姿勢も根本的に変わった米軍機墜落事故を取り上げたという高久はるかさんは、多数の死傷者を出した墜落事故平和資料センターの斎藤真弘さんが、77年に同事故について説明。被害者への補償などをめぐり、横浜市緑区(現青葉区)で

50年たつても「変わっていない」

☆ガイドから一言

「日吉の丘に歌声が響く」 運営委員 長谷川崇

5月16日(木) 豊田市下山中学
校教員、生徒男女、57名が午前9
時40分ごろ2台のバスにて銀杏並
木の日吉キャンパスに到着しまし
た。



下山中学のコーラス『翼をください』

ター、国会議事堂、東京ディズニーランド、そして地下壕見学、中華街散策、氷川丸見学後、帰路に。

地下壕見学については出発前にガイダンス後教員、生徒を3班に分けて見学順路を進み時間の関係上地下壕見学までとなりました。生徒たちの真剣な表情が各班に見ることができ我々ガイドも感心して案内が終わりました。

そして地下壕出入口より出た所で代表の生徒より見学できたお礼にと全員によるコラスを聞くことになりその歌こそ今小、中校生に歌われている「翼をください」でした。木村君のタクトで美しい歌声が日吉の丘に響きわたり改めて平和の尊さをかみしめる事が出来ました。(2009年5月18日同校の見学がありその時も歌を聴いています)



拝啓 暑さも日々厳しくなり、夏が近づいてくるのを感じる季節となりました。皆様におかれましてはいかがお過しでしょうか。

さて、先日は日吉台地下壕の見学やお話を聞かせていただき、本当にありがとうございました。皆様のお話で一番心に残ったのは特攻隊の人々が攻撃に行くときに音を鳴らしながら敵に突進していく、地下壕にいる人はそれを聞いていたというところです。私が知っていたのは実、こんで行ったという話だけで、かわりもいたなど思っていたのですが、残っていた人もつらさ思ひをしていたと知り、やはり戦争は悲惨なものだと改めて思いました。仲間が死んでいく音をただ聞かることしかできないのは本当に悲しいことだと思ひます。なので、教えていたことをしっかりとまとめて、伝えて二度と戦争が起こることのないように、これからも平和学習をかんばっていきたいと思ひます。

皆様も、これからもお体に気をつけて、元気にお過し下さい。このたびは本当にありがとうございました。

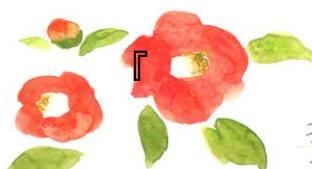
敬具

五月二十四日

下山中学校 3年 牧野 千尋

日吉台地下壕保存の会の皆様

MIDORI



拝啓 日々、暑さも厳しくなってきており夏を実感することあります。みなさまはいかがお過ごしでしょうか。

さて、先日は地下壕について、一つ一つていねいに説明していただきありがとうございました。

戦争のためだけに、こんな建物を地下に作ったのが驚きました。中もかなり立派にできています、中や居心地が良かったです。それでも、戦争のためだけに作られた施設だと考えると好きにはなりません。

みんなに暗い戸で作戦を伝えたり、話し合っている姿を想像しました。

見学をして、戦争は大変なものなんだと今が分かりました。ますます、世界の平和を願うようにならうと思ひます。

日吉台地下壕保存の会のみなさま、かせなどひかれませんよう、お体に元気をつけてください貴重な体験をありがとうございました。

『翼をください』

作詞 山上路夫、作曲 村井邦彦

今私の願い事がかなうならば
翼がほしい
この背中に鳥のように
白い翼をつけてください
この大空に翼を広げ
飛んでゆきたいよ
悲しみのない自由な空へ
翼はためかせてゆきたい

5月24日 下山中学校 木村 淳介

日吉台地下壕保存の会様

連載 地下壕設備アレコレ【その8】壕内の受信機の台数はいくつ?

運営委員 山田 譲

日吉の連合艦隊司令部地下壕には、短波受信機がたくさん並べられていました。しかしその台数についてはいくつかの説があります。

第一の説は「30台位」で、地下壕で勤務した元電信員（「終戦時二十歳」）の下村恒夫氏の投稿（慶應義塾生協ニュース 1994年7月15日号）に書かれています。それによれば使われていたのは九二式特受信機で「二十年一月頃か、我々は新装成った地下の電信室へ移った。」「両壁ぎわに机が並び真中の通路を挟んで受信機が机の上に置かれていた。受信機は三十台位あったろうか」と書かれています。

第二の説は「40台」。これは日吉の寄宿舎で勤務していた連合艦隊司令部情報参謀の中島親孝中佐が書いた『聯合艦隊作戦室から見た太平洋戦争』（光人社刊）の記述で「地下電信室に四十台の受信機をならべ」と書かれています。しかし中島参謀は実際には日吉での通信の実務に関わっていたわけではありません。暗号兵が解読した電文を受け取ってそれを分析するのが仕事でした。通信実務を担当していたのは通信参謀の市来崎秀丸中佐でした。ですから中島氏が「40台」と書いているのは自分の職務として把握していた数字ではないと思われます。なお悪いことにこの本では「寮の建物もコンクリート造り二階建て」ということを、二回もくりかえして書いています。言うまでもなく日吉の寄宿舎は3階建てです。ですから中島氏は自分が起居し勤務していたにもかかわらず、寄宿舎の階数の記憶を間違えているわけです。こうなると「40台」という数字の信憑性もかなりあやしくなります。

他方、『日本無線史』第十巻には「昭和十八年実行に移された標準は概ね左の通り」として「聯合艦隊中枢通信隊に適用す」として「受信所 大型受信機二、小型受信機四〇」と書かれています。この数字はあくまで「標準」ですから実数ではありません。実際「現地の状況に依りて送受信機不足の場合には短移動電信機を供給す」とも書かれています。

また『戦史叢書 大本営海軍部連合艦隊〈6〉』には、日吉の「電信員 60」、「外国の電波を傍受 30」「暗号員 45」と書かれています。これだと地下壕で勤務した電信員は合計90人です。24時間年中無休の交代勤務体制ですから、4班3交代として当直体制22~23人になります。一人で複数台受け持つことは不可能なので、この人員で受信機40台とは考えにくく、予備機を含めて30台位というのが妥当でしょう。

ところで受信機の置いてあった電信室は全長16.4mです。これに対して受信機は、当時もつとも使われていた92式特改4という型で横幅67cmです。これを左右密着して置くことはありえないでの、受信機を1行おきに置くと片側16台、両壁で32台です。無理して40台置こうとすると隙間15cmで相当窮屈です。

以上のことから考えると、実際に地下壕で勤務していた電信員の下村氏の「30台位」という記述をとるべきだというのが、私の判断です。みなさんどう思いますか？

活動の記録 2013年4月～6月

- 4/17・18 横浜市文化財課7a出入口調査
- 4/19 地下壕見学会 ユーコープ緑区 36名
- 4/24 会報109号発送(慶應高校物理教室)運営委員会
- 4/25 地下壕見学会(手話り場) 19名・TBS(噂の東京マガジン)収録
- 4/27 定例見学会 37名
- 4/30 神奈川県教育委員会に運営委員3名(新井・亀岡・長谷川)
市文化財課が北側沈殿槽を測量
- 5/1 神奈川県教育委員会・横浜市教育委員会に要望書を提出・文化庁に郵送
- 5/3 戦争遺跡保存全国ネットワークが文化庁・神奈川県教育委員会・横浜市教育委員会に要望書を提出
- 5/8 地下壕見学会 あすかの会 21名
- 5/9 横浜市建設局宅地審査部宅地審査課に開発行為について住民の方と聞きに行く
- 5/11 ガイド養成講座(フィールドワーク・藤山記念館大会議室)
- 5/14 運営委員会(慶應高校物理教室)
- 5/16 地下壕見学会 愛知県豊田市立下山中学校 57名
- 5/17 地下壕見学会 都職労退職者協議会 36名
- 5/20 地下壕見学会「もうひとつの指導書」研究会(育鵬社版歴史教科書)11名
(見学用出入口の扉が開かず入坑できないので後日に見学会を設定24日に修理済)
- 5/25 地下壕見学会 定例見学会 42名
- 5/27 地下壕見学会 富士市年金者組合 26名
- 5/31 5月1日提出要望書への回答受理(横浜市教育委員会)
- 5/26・30～6/2 第18回 2013平和のための戦争展 in よこはま開催(かながわ県民センター)
- 6/1 2013年度定期総会(藤山記念館大会議室)
- 6/5 地下壕見学会 濑谷区阿久和地区センター 29名
会報110号・横浜市への要望署名用紙 発送(慶應高校物理教室)
- 6/6 横浜・川崎平和のための戦争展実行委員会(慶應高校物理教室)
- 6/8 日吉の戦争遺跡ガイド養成講座(来往舎大会議室)
- 6/10 日吉地区センター自主事業「わが街再発見」日吉の空襲と日吉台地下壕(日吉地区センター中会議室)茂呂・喜田
- 6/10 横浜市文化財課6a出入口下遺構調査
- 6/12 地下壕見学会 竹橋事件の会 26名 ○大聖院で竹橋事件小島万助墓参の後、見学会 ガイドも参加しました
- 6/14 運営委員会(慶應高校物理教室)



ガイド養成講座

- 6／17 地下壕見学会 日吉地区センター自主事業 39名
 6／18 地下壕見学会 神奈川県立大師高校 15名
 6／19 日吉五丁目の緑と住環境を守る会 横浜市に署名提出（822筆）
 (保存の会会員から多くのご署名をお送り頂いています)
 6／20 平和のための戦争展 in よこはま 実行委員会(かながわ県民ホールセンター)
 6／22 定例見学会 47名
 日吉地域九条の会講演会「連合艦隊司令部は日吉台地下壕で何をしていたのか」新井揆博（日吉本町いきいき会館）
 6／24 地下壕見学会 慶應大学福澤センター設置講座① 55名
 6／25 横浜市会 こども青少年・教育委員会の議員11名が地下壕と開発工事現場を視察



竹橋事件の会(小島万助の墓参)

- 地下鉄グリーンライン沿線情報誌「横浜丘の手 ぐるっと」夏号に紹介記事
- 開発工事に関する新聞掲載等

4／17 朝日・神奈川・産経・ヤフーニュースに掲載	日吉台地下壕保存の会HP
アクセス数35,000件以上	ア
4／19 tvkニュース放映	クセス数35,000件以上
4／22 産経新聞	4
／23 東京新聞	／23 東京新聞
5／1 朝日新聞 神奈川新聞	5／5 TBS噂の東京マガジン放映
5／8 読売新聞 神奈川新聞	5／9 赤旗・タウンニュース
／26 読売新聞	5

予定

7／4 会報111号発送（慶應高校物理教室）

○ 定例見学会

7／27(締め切りました)・ 夏休み見学会 8／3(土)・8／5(月)・8／7(水)・
 8／31(土)・ 9／28(土)・10／26(土)

☆地下壕見学会は予約申込が必要です。

お問い合わせは見学会窓口まで **045-562-0443** (喜田 午前・夜間)

連絡先(会計)亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 Tel 045-561-2758

(見学会・その他)喜田美登里: 横浜市港北区下田町2-1-33 Tel 045-562-0443

ホームページ・アドレス : <http://hiyoshidai-chikagou.net/>

日吉台地下壕保存の会会報

(年会費) 一口千円以上

発行 日吉台地下壕保存の会

郵便振込口座番号 00250-2-74921

代表 大西章

(加入者名) 日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会運営委員会